

議 事 録

日 時	2023年1月31日 (火) 16:00~17:00
作成者	鈴木 達也
場 所	基礎医学実習室

会議名	2022年度 第1回学校関係者評価委員会	
出席者 (敬称略)	外部委員	三沢幸史 (東京都作業療法士協会 副会長) 田中匠作 (あい介護老人保健施設 作業療法士主任) 横山浩康 (熊谷総合病院 リハビリテーション科 課長) 下河辺雅也 (山田記念病院 リハビリテーション科 技師長) 関 雅彦 (板橋ロイヤルケアセンター リハビリテーション科 科長) (欠席者) 大塚俊平 (錦クリニック 作業療法士)
	学校	草野修輔 (学校長) 林正志 (副校長) 石垣英司 (教務部長) 中嶋裕之 (事務部長) 阿部靖 (PT統括学科長) 深瀬勝久 (OT統括学科長) 土手延恭 (PT夜間部学科長) 手塚雅之 (OT昼間部学科長) 松生容一 (OT夜間部学科長) 鈴木達也 (学務課課長代理) 樋口豊朗 (教務課課長代理)
	欠 席	黒木光 (PT昼間部学科長)
配布資料	・議事	

議 事

1. 学校関係者評価委員会の目的・運営方針説明

事務局より、学校関係者評価委員会の目的及び運営方針ならびに令和5年度の実施スケジュール等について説明を行った。

2. 令和3年度自己点検報告

重点課題に設定している学生募集と中退率削減について説明を行った。

(1) 学生募集と受け入れ

①入学者の推移について

- ・令和3年度まではPT(昼夜)は定員40名、OT(昼夜)は定員35名で募集を行っていたが、令和4年度より、PT昼の定員を80名に増員している。
- ・その結果、令和4年の入学者数は目標に達する事が出来なかった。

②今年度途中経過

- ・PT(昼)は定員に達しているものの、PT夜、OT昼夜は現時点で定員未達となっている。
- ・定員充足に向けて、OT科の魅力づくりを進めていく。

(2) 中退率削減について

- ・学園共通で中退率5%以内に目標を設定している。
- ・令和2年度はコロナの影響により遠隔教育を実施、中退については全体で2.4%となったが、令和3年度以降、学園共通の目標達成には至っていない
- ・1年次の中退者が全体の大半を占めていることから、今後は1年次の中退ををいかに減らしていくかが課題となる。

上記入試および中退の結果を踏まえ、今後の学校運営について競合校の動向を注視しながら検討を進めている。

3. 質疑応答、意見交換

委員より、以下の質問・意見があった。

- ・日本の養成施設の中で世界作業療法連盟の認可を受けている学校は、高度な学習を実践している学校として募集の際の売り文句になるのでは。
- ・2018年度国内の指定規則の改正に関して、3年制の養成施設はスケジュール的にきつい授業内容にならざるを得ない。次の指定規則の改正についても、同じ流れが続くのではないか。

3年課程と4年課程の学生の違いについて

- ・3年制と4年制で学生の学習レベルに差は感じられない。
- ・大学生より専門学校生の方がモチベーションが高い印象がある。
- ・3年制の学校を選ぶ学生はいち早く現場に出たいという意思が強く、実習指導上はスムーズに進んでいる。
- ・学校として、3年課程と4年課程の違いという事で、実習時間の多さや即戦力として求められる知識の量などを提示して募集を行っている。態度面の教育について工夫が必要と感じている。

P T学科定員増について

- ・定員増加に伴い、クラス内の学力に差が生じていると思われる。今までの教育とは異なるフォローの仕方を行うなど、退学率を抑えるための方策を考えるべき。
- ・低学力者と高学力者が混在する中、低学力者に対する指導とともに、学力や意識の高い学生に対する指導についても今後検討いただきたい。

- ・現場ではOTが足りないが、募集が少ない理由は何なのか。

→明確な理由は把握できていないが、OTの知名度の低さ、魅力を伝えきれていない事が考えられる。

今後は、OTの魅力づくりを進めるとともに、入学希望者に対しアピールしていきたい。

4. 第2回会議開催に向けて

今回頂いたご意見・ご質問等を学内で検討し、次回の会議にてご説明をさせていただきます。